

総務企画委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 平成29年7月18日(火)～7月20日(木)

◆調査先・調査内容

①奈良県議会(奈良県奈良市登大路町)

調査内容：国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭の準備状況について

全国で初めて国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭を一体で、9月1日～11月30日の間、県内39の全市町村で開催する。「日本文化の源流を探る」、「文化の今を楽しむ」、「文化芸術立国の礎を築く」、「障害のある人とない人の絆を強く」の4つの基本理念を掲げ、大会を盛り上げるため、ロゴマーク、マスコットキャラクター、公式ポスター、イメージソングを作成。県と市町村の実行委員会主催の103の事業(総合フェスティバル3、シンポジウム7、国際交流事業2、障害者交流事業16、分野別フェスティバル75)のほか、民間団体による1000を超す協賛・応援事業を予定。

トラベルセンターの早期設置、応援サポーター制度、プレイベント等によりPRと誘客に努めている。

<主な質疑等>

- ・予算規模、県民の認知度、文化祭の成果やノウハウの継承等について



②国立国際美術館(大阪府大阪市北区中之島)

調査内容：組織、運営方法、展示方法等先進美術館の運営状況について

国内外の現代美術を中心とした作品を収集・保管・展示するとともに、関連する調査研究を行う国内5つの国立美術館の一つである。万博終了後、旧万博美術館を国立の美術館とするよう大阪府等が要望し、昭和52年5月に設置された。平成16年11月に大阪市中之島に世界でも珍しい完全地下型の美術館として新築・移転。職員数は現在31名。国から運営費交付金を受けて運営されている。

所蔵作品は、平成28年度末現在7,981点。館で最も古い作品はセザンヌの1890年の作品。特別展・共催展(新聞社やテレビ局等との共催)での入館者数が全体の7割を超えている。

日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語による音声ガイダンスとキャプション設置、近隣美術館や民間施設と連携した割引サービス等に取り組んでいる。

<主な質疑等>

- ・現代美術の動向、展示の工夫、他館との交流、入館者数目標等について



③神戸市御崎公園球技場（兵庫県神戸市兵庫区御崎町）

調査内容：ラグビーワールドカップ 2019の準備状況について

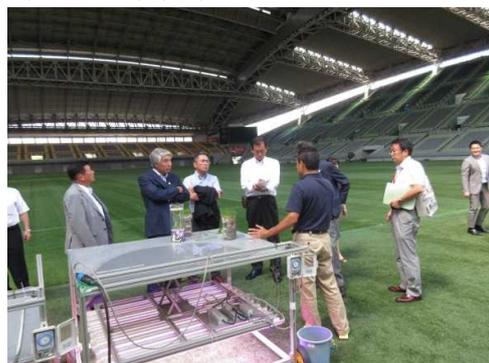
教育委員会事務局のスポーツ体育課の国際スポーツ室が、2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック／パラリンピック（主にキャンプ誘致）、2021年のワールドマスターズゲームズの3つの国際的スポーツイベントを所管。

今年度は、テロ対策等安全対策、交通輸送、ホスピタリティ、ファンゾーン設置等の基本計画を策定するほか、PR動画や横断幕等によるプロモーション活動、タグラグビー教室と指導者養成研修の実施、キャンプ地誘致などに取り組んでいる。大会後を見据え、今年10月にハイブリッド芝をスタジアムに導入する。

神戸のラグビーは150年前の開港以来の長い歴史を有し、社会人のトップチームが存在し、指導者等の豊富な人材に恵まれ、根強い人気がある。このことが立候補のきっかけとなった。

<主な質疑等>

- ・ 県との関係、テロ対策、芝の問題、インバウンド対策等について



④大分県大阪事務所（大阪府大阪市北区梅田）

調査内容：関西圏における大分県の観光・移住対策等の取組状況について

おんせん県おおいた課6、企業誘致課3、嘱託3の計12名の体制。関西大分県人会、全国農業協同組合連合会大分県支部が置かれている。

「The おおいた」ブランドの確立と農林水産物等県産品の販路拡大、大分県への観光誘客活動・移住定住促進活動・企業誘致活動、県人会組織の活動支援に取り組んでいる。

大分県内への宿泊者数は、平成26年をピークに減少傾向にある。誘客回復を目指し、県、ツーリズムおおいた、県内市町村等と連携し、新たな旅行商品の提案、一般消費者向けの宣伝活動を行っている。

大分県への移住者は、毎年大きく数を増やしている。移住相談会（おおいた暮らし塾）を開催するなど、希望者の掘り起こしを行っている。平成28年度から専任の移住サポーターを配置。28年度は相談会を12回開催。参加者311名、個別相談件数190件。

<主な質疑等>

- ・ 九州北部豪雨災害の影響、情報発信の工夫、県人会の活用、企業誘致等について

